

より良い教育環境づくりへ ～学校の適正配置（小・中学校の統合等）～

学校適正配置の趣旨と背景を教えてください。

本市の小・中学校では、昭和50年代以降、子どもたちが急激に減少し、多くの学校で小規模校化が進みました。一方、宅地開発や集合住宅の建設による学校の大規模校化が進んでいる地域も一部にあり、教育環境の不均衡や小規模校化・大規模校化による様々な教育上の問題が生じています。

本市では、このような問題を改善するために第1次学校適正配置に取り組み、平成18年4月に本市初の統合校『花島小学校』を開校しました。平成20年4月には、校舎もリニューアルし、子どもたちは、明るく意欲的に活動しています。先生方の間からも「統合後は、子どもたちが様々なタイプの仲間と知り合う中で、学習活動においても特別活動においても向上心が高まってきている。」といった声が上がっています。



きれいになった花島小学校の洗面所

しかしながら、平成20年度現在、千葉市内で12学級未満の小規模校が、小学校で約4割、中学校で約5割に達し、今後さらに増加が予想されます。子どもたちの健やかな成長のためには、学校規模の適正化を図り、良好な教育環境を整え、教育の質の向上を図ることが、急務の課題となっています。

平成26年度(推計)において、小規模及び大規模となる学校数と割合

	小規模校(12学級未満)		大規模校(25学級以上)	
	小学校	中学校	小学校	中学校
中央区	6校(31.6%)	6校(66.7%)	3校(15.8%)	1校(11.1%)
花見川区	8校(34.8%)	6校(54.5%)	2校(8.7%)	1校(9.1%)
稲毛区	2校(12.5%)	4校(57.1%)	2校(12.5%)	0校(0.0%)
若葉区	14校(70.0%)	5校(50.0%)	2校(10.0%)	0校(0.0%)
緑区	5校(31.3%)	2校(28.6%)	1校(6.3%)	1校(14.3%)
美浜区	17校(65.4%)	8校(66.7%)	4校(15.4%)	1校(8.3%)
千葉市全体	52校(43.3%)	31校(55.4%)	14校(11.7%)	4校(7.1%)

()内は、該当区の学校数に対する割合です。稲毛高等学校附属中学校は除いています。

第2次学校適正配置の現在までの取り組み状況を教えてください。

本市では、平成18年度から第2次の取り組みをスタートさせ、平成19年3月に学識経験者や保護者・地元代表者からなる「第2次千葉市学校適正配置検討委員会」から「学校適正配置の基本的な考え方」が答申されました。同年10月に策定した「千葉市学校適正配置実施方針」は、この答申を踏まえて策定したものです。

本市では、この「実施方針」に基づき、学校適正配置に取り組んでおり、現在、美浜区の実砂、磯辺、幸町、高洲・高浜の4地区に、PTA・保護者会、自治会、青少年育成委員会など学校に関わる様々な団体の代表者からなる「地元代表協議会」を設置しています。各協議会では、地域の子どものための教育環境をいかにすべきかとの視点で、真剣に議論が交わされているところです。